



いわて医療通信【薬の服用について】

1. 薬の正しい飲み方・使い方

薬は「正しく」飲むこと、使用することで期待される効果を発揮します。不適切な飲み方や使い方は、思わぬ副作用を引き起こす場合もありますので、薬の正しい飲み方、使い方について紹介します。

薬は「正しく」飲むこと、や食間（食事と食事の間）、食事の2時間後が目安）に飲む薬があります。食品との飲み合わせが問題となることもあり、有名なものとして、ワルファリンという薬を固まりにくくする薬と納豆、ニフェジピンという高血圧の薬とグレープフルーツジュースなどがあります。

薬は内服薬、貼付薬、点眼薬、注射薬など、さまざまなものが存在します。このうち、最も一般的な最初の3つについて簡単に説明します。

多くの内服薬は、食後（食事の後30分以内）に飲むことが多いですが、なかには食前（食事の30分前）

で、皮膚に強い炎症を起こすものもあります。そのため、貼付部分を衣服（白い生地や薄手の服は避ける）やサポーターなどで遮光する必要があります。

点眼薬は、特別な指示がない限り、1滴を点眼し、1分程度まぶたを閉じるようにしましょう。なかには、よく振ってから使用するものがあります（懸濁性点眼液）。点眼液が汚染される原因となりますので、容器の先がまぶたやまつ毛に触れないように注意しましょう。

近年、子どもの薬の誤飲

事故が報告されています。また、身近で相談しやすいところは、子ども手の届くところ、薬が置いてあるところが原因の一つといわれています。シートに入っている薬は、子どもからすると、お菓子のように見えるのかもしれない。このような事故を防ぐためにも、薬は子どもの手が届かないところへ保管しましょう。

薬や健康のことでお悩みの際は、お気軽に薬剤師へご相談下さい。

お気軽に薬剤師へご相談下さい。



於本崇志